

研究課題名：美浜町における災害にも強いまちづくりに向けた支援

—地域住民の“強み”をつなぐ災害支援共助システムの構築—

研究の目的

本研究では、美浜町が「災害にも強いまち」に発展するために地域住民の“強み”をつなぐ災害支援共助システムの構築を目指す。そのために次の3点を研究内容とする。

- ①災害時を想定し、地域のボランティア団体や個人がネットワークする “災害支援ボランティア養成プログラム” の開発
- ②地域のボランティア団体や個人のエンパワメントの機会として、個々が自分自身の持つ“強み”に気づける研修会の実施
- ③研修会受講者を中心に、美浜町災害支援ネットワークを組織化し、災害に備えるとともに、近隣地域(他府県等)で起こる災害時の支援も視野にいたした実践研究会の継続

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

1つめの目的である“災害支援ボランティア養成プログラム”の開発については、対象地域のネットワークを試みつつ、一定の研修モデルがまとまりつつある。この研修機会に続き、2つめの目的として、地域の団体や個人が個々の持つ“強み”に気づける研修会(ワークショップ)を実施した。これによって、顕在する力、潜在する力を含め、地域全体のエンパワメントの機会につながっている。また3つめに対象地域の「災害支援ネットワーク」の組織化もねらい、研修会の参加者を中心に、交流の場を設けた。これによって、今後もこうした実践を継続したいという希望や、すでに地域に存在するネットワークの見直しや強化への意欲、または他地域での開催の可能性が見えてきた。われわれ研究チーム主導による取り組みによって地域住民の主体性が呼び覚まされ、さらに地域住民の参画による取り組みに期待ができる。

優れた成果があがった点

本研究は地域資源としての大学が地域に対して、知識や技術を伝達する形態ではなく、地域住民参画型の企画運営としている。地域、あるいは地域に暮らす住民個々に対するエンパワメント・アプローチの試みでもある。したがって、本研究全体を通して、地域住民の災害に対する意識の変容、住民同士の関係性の変化、大学と地域の関係性の変化が現れていると考えられる。

特に“DoNabeNet につづく”は、学生の主体性を重視しながら、地域住民との協働による実施であり、そのプロセスにおいて、十分なコミュニケーションをとりつつ、集会所をはじめとする地域資源の把握等の機会となった。研究期間終了後も、地域住民と学生による企画の広がりも生まれており、本研究が1つの“しかけ”としての機能を果たしたといえる。

研究期間終了後の今後の展望

対象地域である美浜町美浜緑苑では、こうした集いの場に30~50名の参加があったことから、テーマに対する強い関心があることがわかった。しかしながら、災害時を想定すると、防災や減災への意識、あるいはふだんからの顔の見える関係づくりには、より多くの参加が望ましい。また対象地区は、近隣地域の中でも、比較的高台であることから、近隣住民に対して、一時的な避難所の受け入れ支援や避難所運営にあたる可能性もある。こうした具体的な状況を描きつつ、さらにステップアップした研修を開発していくことが課題であろう。また今回の試みは近隣市町においても可能であることから、本学学生の参画も得ながら、他地区でも研修会や交流の場を実施することが望ましい。またこうした活動のサポートを学生、教職員によって実施できる体制づくりも重要な課題であるといえる。